近世名家書畫談

霞亭題簽　上冊

雲煙子編次

近世名家書畫談

東都玉巖堂

繡梓

新鍥名家書畫談引

雲烟生每售文籍獨兼售書畫自謂文籍萬卷都有價例書画今古各有鑒別故雖文籍充棟猶信手而售焉抑書畫則不然豈可玉石殘混淆猥歎人乎其志也洵薄俗流亞矣宜甚剞墨殘縑反復詳玩而獲真蹟則守價不移遇贋迹則視如芻狗因憶書畫過眼年〻三百台

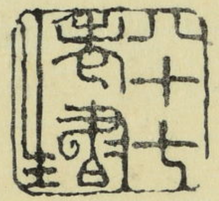
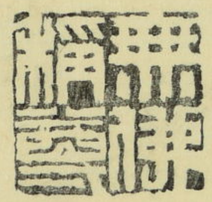
十日真贋鑒別歲〻矣翅千百幅于是
鑒識日進一日遂著名家書畫談生談
大抵雖沿前人門戶法〻然說而一融
貫裡間有權衡要歸至當矣若夫諸老
遺事按而讀之則其風韻情致皆於此
中呼之或出矣此謂之一幅寫照石云
可乎此編已圖近刻因乞予言柰予於
書畫固茫然也更無可著筆無已則聊

有說曰老知書畫真有益此陳后山句
意者當時陳老亨壽幾何今茲我年八
十有七冶服未昏燈下尚讀蠅頭字殊
怪及對名人書畫惝〻乎如瞽者無以
與乎此觀而況知有益哉嗚呼雲烟年
甲未及三十而書畫結緣受用此益何
居非具一雙慧眼烏能獨受眼福今試
傳指我年三信于雲烟猶吾能而書畫

無緣老大薄福一至此乎然又自寬曰
吾聞昔之俗士睢盱如至玉石不辨貪
婪慳藏動輒誇人此非耳鑒則直好貨
耳是亦甚於予之薄福者也今夫雲烟
不能雕則真跡石事備蓄無作雲烟過
眼觀又拓而自表良有以也漆園玉滑
魚而忘筌或者有見解耶否則眼中輩
庶曷出此新編哉予欣賞不啻乃贈石

配一方其語曰書畫手章蓋寓嘉獎之
意云雲烟名於莞字山君姓安西氏
天保庚寅臘月　爲如老人題于三
家村舍南窻曝背之處時年作米符
前一歲

十二童　天石辯書

近世名家書畫談上卷目次

○書画心得の事
○書の私論の事
○畫の私論の事
○画に南北二宗ある事
○鑒定の事　附 賞鑒家好事家の事
○展觀會の事
○書画會の事
○書画帖の事
○書画に榮辱ある事

○墨帖の事
○落款の事
○造筆の事
○印章の事
○懸物の事
○表具の事

近世名家書畫談上卷

雲烟子　安西於菟編次

書画心得の事

元楊維楨曰。書盛於晉。画盛於唐宋。書與畫一耳。士大夫工畫者必工書。其画法即書法所在然則書画豈可以庸妄人得之乎。又曰。書画優劣關於人品之高下。無侯王貴戚軒冕山林道釋女婦苟有天質超凡入聖即可冠當代而名於後世矣云云　我邦みても書画ハ凡搢紳家より諸名流に至るまで各生心畫の寄る所ありされバ世賞塗家ハ生ゐ画の秘

沉闕し製合する所ハ行墨の間ゑありて生妙雲紙賞
玩し古人ゑ対するごゝ地あり　この所生人貴とし
ど人品高ものらば筆墨妙ふるべいのそ故の賞鑒ゑ
のらんや近世ゑ就て畧その一二紙いはゞ搢紳ゑ光廣卿家
潔々あり法眼ゑ　源義公ゑ新太郎君のゆきあり儒流ゑハ
石川丈山朱舜水人見竹洞伊藤仁齋父子貝原益軒一色菊
叢物徂徠の諸老先生あり武弁ゑ宮下玄蕃柳澤淇
園あり隠逸ゑハ長嘯子卅山妙子あり醫人ゑハ吉川秀菴
父子吉益東洞あり臨池専門ゑハ雪山翁廣澤先生
あり丹青ゑハ円山ゑ宗達光琳池大雅蕭白のとゝ

あり猫流ゑ一峯和尚あり吉祥寺十八世俳人ゑハ芭蕉ゑ角
あり女流ゑ千代園め秋色あり生地扶摩ゑ
びさんば雪送筆の斷簡殘箋ゑ流ようこれ紙見ること麟
角鳳毛のゆゑ是人ゑ藝ゑ紙ゑ傳ること
さて若諸表先生の中ゑ専門の輩ハ生精藝ゑ門戸
沉南き生技を賣りて聊二流の因ゑかゆるまゝ
始ゑ名利の為ゑハ あゝびさんば ゑ書生ゑ画世ゑ
長く傳り流の人ゑ愈寶玩とし若拙技ゑ利名紙
得雲名一時ゑ噪しきハ西渭一大形ゑ吠れゞ美丈聲
ゑ吹るの影ゑして生涯沒ずる中ゑ名ゑ從て漸滅生

爾〻志のれバ書画の名も其實あ〻くいそ長く
傳らんや但〻書画の〻あらざるべ〻と或人のいひ余こ
の言ひき〻常に見聞きる諸名流の梗槩を記し是
伐第二卷に載せ姑くゆ傳ふ擬ん此諸名流を後世よく
益々芳名の傳るべき輩なり今所載僅に十数条に
過ぎといへども皆藝林の佳話なり猶異聞を得て續
刻の擧あり異を同好の諸君子先事遺事の〻傳事
を好ぶ〻於菟に贈り寡聞を助けんと伐祈る而已

書の私論の事

或人云書ハ後の人古ぶりを伐法と〻まふを誰も志

りあるるまざりされど後の人古ぶりを摹擬〻て體
裁ハ似るとも後世を自ら後世の品格ありて前世の
品格に及ばざるハ自然の道理ゆ〻人作のおなりを
志る爾〻あゆ古ゆ遡り譬バ晉唐或ハ宋元明の大
家伐ゆと〻学びても後の品格ハ自ら存するものと見
得さうその故いうんとなれバ明人ハ其一代の品格あり又
清人も亦一代の品格ありこれも世降るに従ひ氣運
の志うつるもるゆ〻て所謂人作の外なり〻云ハ是
されバとて後の人を前賢の書法を知と〻学びざれハいう
で斯道に入るを伐ゆんや古人も法ハ迹なりとも云いうも

学者も生涯成ずまされば斯道に入ることあたはず云々

清梁啓心有言云。凡學必循法。況書為六藝之一。其不可師心明矣。云云實に此説のごとく書才ある人もたで心を師として古人の法にらうれば譬ば君子すて衣冠成着ざるがごとく人これ成型を威儀をなすある漢土にて歴代名家も皆法成前代に而其書をなして根據とする所を考るべし此際にても書に志ある人法にのること法帖の外なれども法帖を考むと心ばあるべきなり

昔日和の人書家先生あり始て古法帖を唱へ自らは王右軍を奉じ旁唐の諸賢に参じ書法成就せりと生事成

高尚して一時これが為に靡ひて意ハ儒流なれども秦漢以下の書を讀びと云に倣ひ（秦漢上の書ハ其世の文なり古法帖を見ることこれとハなひ）

詞客なれハ林義卿詩則を著し終身不讀而可者東坡山谷之詩とのるまなり有る宋元明諸大家の書を見ると皆此意とこそ又自ら一書成著して我朝上代の書法を賛美をしとハ誰もこれなる可怪も尊圓親王のひまぐは上代の遺風もこれを後ハ益卑陋なるなりは論に及び今の唐様と云もの華と和との間一種の流義とこそいふハ全ひの専門の人を指していはるなるべし是言至極尚れりと思るれども

その先生の業も亦一種の唐様と見へつるされを専門の人と五十歩百歩なるべし前に云へる尊圓親王の後古法善書地を掃ふといへるハ全く豆腐管見とも云べし今試に清王渙洋云昔時華州郭宗昌遼左にて倭師豊臣の書一紙を得て其體行草にして古雅蒼勁晉唐乃風あり是ハ朝鮮破るの後得て吾太王山史に与へ香祖筆記に云へる宗昌ハ明季の人にて博学碩儒のみなるべし兼て書法を能し金石史等の著述あり山史亦明末に清に仕へて鴻儒にして又筆札を能好み十七帖述を著せりとある豊臣の書この輩

の鑒賞にのると真に奇蹟といつべし又按に朝鮮の役に彼の地に至りし両大将加藤小西とも豊臣姓なりとあるにたがひ豊臣書とばかりいへるハ或ハ両将中筆記の書に感状の類あるべし又按に山史の晉唐の風あるといへるハ行墨の中に自ら晉唐の遺風あるを見へつるこれらを隻眼を具する人なるべしでは破るべし但この時代一種の品格ハあるべしされども近時贋本の古法帖を学ぶる晉唐字様とは天壌の間なるべしされどこの一條にも親王の能善書者のあるを成るべし又豊太閤親筆の日記摹本を見るとあり書體不凡かの群雄

を籠絡する氣象筆先に現はれ、のゝ有ず字様古
意の存する と宗昌山史の輩に示さば、うゝぐ賛嘆
せ、と思ふる因に云洛陽の東寺に弘法大師真蹟尺牘
四通あり、この名蹟ハ世に所謂大師様と稱する字て
いと多くあて真に唐人と伍ぜなくなれり嘗聞この中一通
を秀次公在世に奪ひ茶室の盛物となされ、云伝り
意に茶室にて賞ずるゆゑにあ、で或ハ此書に倣
ひ、ものとひ、、るも秀次殿下の高弟の様も見伝りて
ものあるべしとおもはる前に いへる贋本古法帖とは浪世傳
ふる淳化星鳳戯鴻絳帖等の法帖ハ幾度も重摹再

刻を経るゆゑて僅に典型髣髴のこれるのみに
ゝてその甚しきハ往々使轉を誤るところあり、これ故
贋帖とは云なり書籍の誤字ハ善本を以て校正されば
事をむなし法帖も左に あるべ彼邦にて古法帖の
得がたきを諸記載を見てもるべ、されば贋帖を以て
古人真面目と思ふを誤はなはだしきかいなし
真面目我身にあるハ碑刻に古くハ是又搨本に新
古の別あれども たとへ新搨剥食のりのうへも正刻に原
石ふれば これ故丁寧反覆して筆路を求めば贋帖の
めき邪路に入ざるべ、されば真の典型を見ること

碑刻よりくハなし。かゝる臨池の志ある人石碑刻を漫然
と看過すべ
於菟按ずるに前輩又伝ふるの書説一則あり左に附記し
て伝を廣む尊圓親王の法書は越子昂の筆意を存
みつの松色者八田家様をおとして厚き所以去り灑
落の筆を成かゝ交へるなり三藪三菩提院殿下を
張即之をおとして米元章の遺風を慕をられ
御門人角倉与市八殿下の法風を変ぜず生涯用ひ
謡本の嗟峨様と云ハ与市の書なり本阿弥光悦を
来殿下の法門人なりるが後年に変じて張即之米元

章をおとして横筆を用ひ一家をなせりとより書才
ありて能出るかゝる師家の出に合ざるものあり
しる或時北野聖廟に光悦三十三番の哥合成書て
奉納しに喜撰法師の都のたつミにすむと云ふ歌を書たる成殿下御覧して聖廟に
奉納するものかゝる誤を書とも有とて引あろ
させ御破り捨ゝるを光悦これをきき誤るはゝ
容に作りなるべきに御情なく出るなりとて門人
法師中て復一家をなせりと云於菟又按に向に
家熙公の書をもつる小楷心経紺紙金字を拝見を

しをあり專ら趙法を一点の倭習を以神品と云べし

畫の私論の事

或人云　我邦上代の丹青名家ハ姑く置き今ハ室町庭の存して衰へざるハ土佐氏狩野氏なりこれを和画專門と云へり土佐上代遺風を傳へ狩野氏今傳る所ハ一定の法ありされど當時狩野正信ハ小栗宗丹ハ学び室町周文才子となり又人物ハ宋梁楷を倣ふと書も見ゆるうれつぎ嗣子元信を出藍の目あり永正の比迄画を明國へ傳へられ彼國知勤縣の鄭深といふる人これを見て画法ハ趙昌馬遠のめしくと賛美せり元信父子ハ土佐のめくまる和法とは一線をしる狩野氏世々繼ぎ迄しかるべし探幽ハ室町天敏の伎倆ありて画一変せりこれを獨出の宗派ともいはんそれより尚信永真の輩相續て室町を傳へ狩野氏の家法一定して今ハ盛と云へり土佐狩野の外雪舟禅師ハ如雪周文を師として專ら漢画の北宗を慕ひ画三昧ハ明の成化年中室國ハ室町時四明の徐璉と云人詩を贈りて久用詩賦超方外賜有丹青落世間の句あり是その詩画を并て義人の真賞をもめ此禅師画法を衣鉢を受る者

子雪村をはじめ名手多くなりぬ又俵屋宗達ハ永徳
の画法を学び尾形光琳も安信の学び惺々翁も山樂
の学ぶ〻いへり後各学ぶところ成すて更に本朝古式を慕
ひ別に一家をなせりこれを絵学びのと云べし　漢土の画
法には南北二宗と云ことあり　我邦如雪周文のめき
宗元北宗名手の法に倣ひ其名猶高し　故に此源昔
時の名家ハ槩北宗にしていまだ南宗の画法ハいまだ世に
行はれざる歟祇南海柳里恭大雅堂の諸老始て南宗
を慕ひこれ画法を開き各一家をなす南海ハ学殖富贍に
して詩文をも能し　里恭ハ文学武術のお稍内典にも通じ

大雅ハ元人雲林にも劣らざる高士にして画尤白眉と称
べき事　此諸老の筆力にてよく周文雪舟の名を
汲ぶることあらんさんざる姑くこれを同じして開山南宗と
も云べきや世にこれを呼て文人画とはいへり又清の乾隆年
中に沈南蘋舶来して長崎に到る画を学ぶ花卉翎
毛に長じ　彩色陸離として所謂其體富貴の見へ
野逸に乏し　畢竟院體の窠臼ハまぬかれぬと云べし　其
後方西園長崎に到り水墨をもて花卉翎毛を作る
繽紛葷菊佃として　明人小仙藻仙の輩を学ぶに似たり
く設色ありて深淺一染して成る山水人物の諸作あ

また花卉禽鳥の骨氣風神あるはなを及ばざるべし

花蕚云余向る方西園鍾馗結本を觀る鍾馗を

劒をもつて大踏歩し仰で蝙蝠の飛を看る生

きるる一鬼あるて雨傘をかぶり生態殺服

して浮ふものに似り筆力絶妙雪山小仙の間すあ

りこれて世に傳る方画贋筆多るんことを思へり

又花卉翎毛のお人物まる工なることを志めり

画法に南北二宗ある事

南宗とは王維字ハ摩詰唐人なり荆浩字ハ浩然開

同 同又作穫共る梁人なり畢宏字未詳 張璪字ハ文通共る

唐人なり董源字ハ叔達釋巨然米芾字ハ元章友仁字

ハ元暉子芾共る宋人なり黄公望字ハ子久大癡と号ス

王蒙字ハ叔明黄鶴山樵と号ス趙孟頫字ハ子昂松雪と号

ス吳鎮字ハ仲圭梅花道人と号ス倪瓚字ハ元鎮雲林子

と号ス共る元人なり沈周字ハ啓南石田と号し更白石

翁と号ス文徵明名ハ璧字をもて行ふる更徵仲と字し

衡山と号ス共る明人なり又北宗とは李思訓名ハ建

と云唐の宗室なり趙幹ハ唐人なり趙伯駒字ハ千

里伯驌字ハ希遠千里弟馬遠字ハ欽山夏珪字ハ禹玉共る

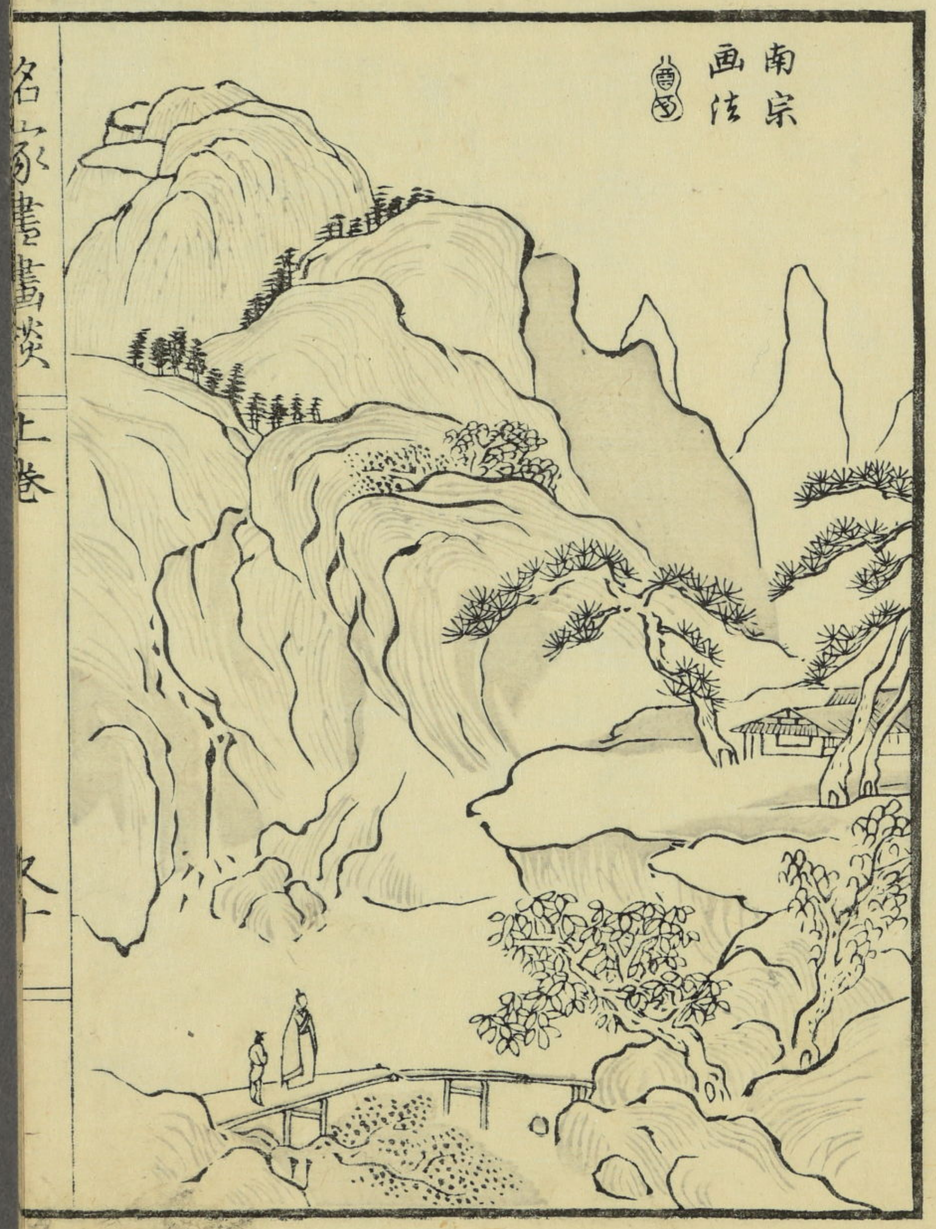
宋人なり戴進字ハ文進静庵と号し又玉泉山人と

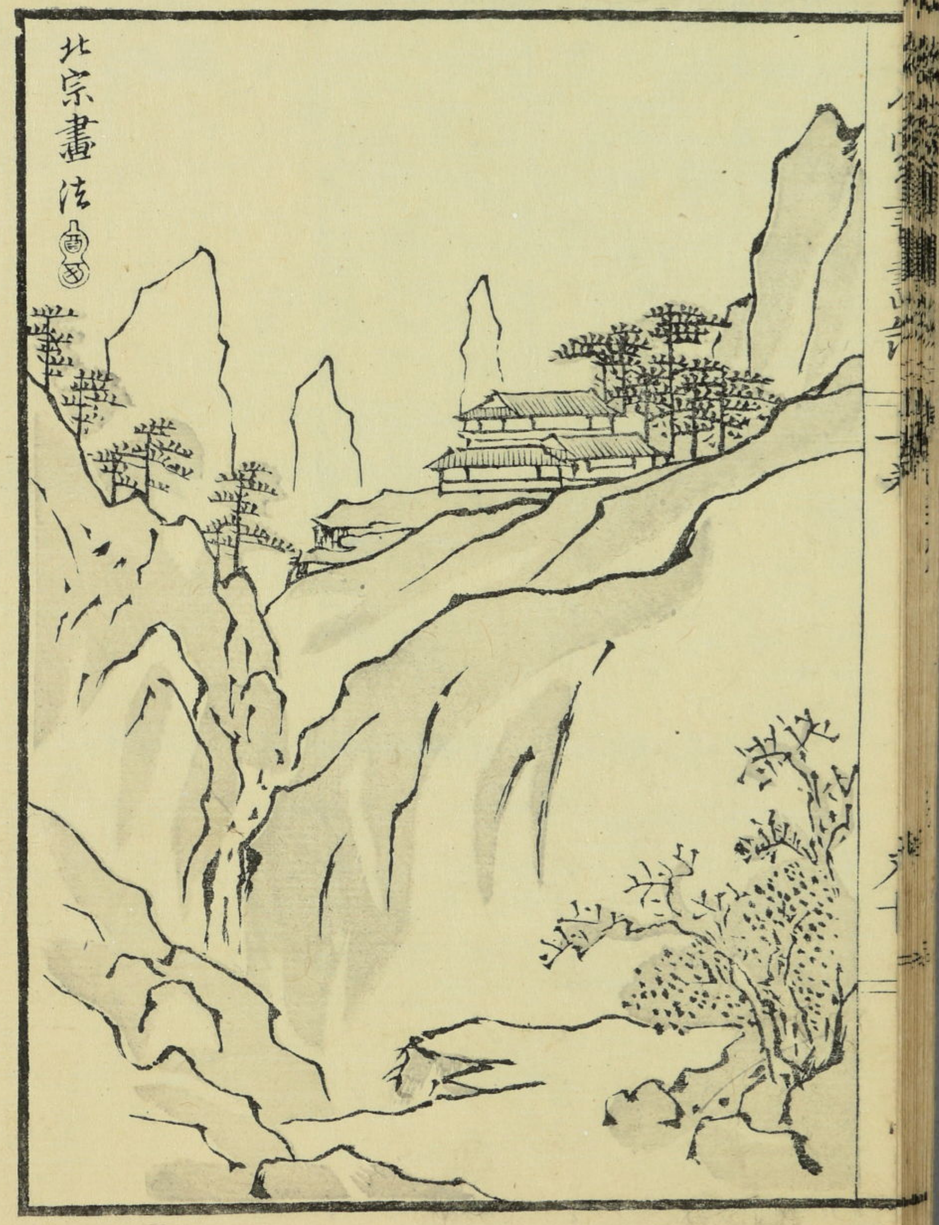
号に呉偉字ハ次翁小仙と号し張路玉山と号し共ニ
明人なり
右八次氏画塵の説なり芥子園画傳ニ北宗ニ
宋の郭忠恕を加へ玉ふ按ニ画傳ニ趙幹を宋人の
中ニ列し従ふべし

鑒定の事

附賞鑒家好事家の事

宋湯垕曰觀画之妙先觀氣韻次觀筆意骨法位置
傳染然後形似此六法也今人看古跡必先求形似
次及傳染次及事實殊非賞鑒之法也又元夏文彦
曰看画之法不可一途而取古人命意立迹各有其





道。豈拘以所見繩律古人之意哉。燈下不可看畫。醉餘酒邊亦不可看畫。卷舒不得其法最為害物。これは漢土の人の画を観る要訣なり。書と画と一致にして書を知るもこの意に同じ。高陽山人初心の人に示す心得の一則あり。姑くこゝに載て雪信を慶む。山人云書画の似せる唐人も上手なりいつれ書画を買求る人も事を志り眼力ある人は身を真贋を定べし。宋南渡の後は曹勲龍大淵の輩書画鑒定の職任じ二人ともに学識あさく因利さがらびに往々見あやまりたりといへり。此陽もそも唐土の事なりとき人もふ

うき吟味もなく大槩よ名筆つけみ画風の我好ミ
よそむけるをハ極まらぬそと云るなり真物の世
ふるきるも多く生涯印記時代を見誤りなるも多
しとゝり花菟桜よ唐の蕭誠偽りて古帖を作り李北
海よ觀ハ小由大よ喜び是筆右軍が真蹟なりと云
蕭誠實ハ其が書なりと告けれハ北海ハ見ると久し
て細よ見れども雜知なるとあるべとるを又唐の太尉
李徳裕獻之が真蹟を得て支度郎中盧弘宣よ見ハ
弘宣其帖を手ふ持てものを不言おそれる顔色な
りるれば徳裕其故を問よ答て云是ハ其頃臨寫しる

所の小王帖よて作と申けれバ弘宣が書を深く奇とする
となん右ハ蕭誠盧弘宣等各大家の所作なれバ生涯
名家といつゝ見分がつき事さもあるべしあるに生涯よ
て尤近き人の書筆都下の名士又沼しく筆聞くよ
左よ高るして吾曹の殷鑒とハ近日都下よ東坡の書
法を好て学ぶ人あるこの人世ふ高るとて筆喜ばハ故ふ
生書を倩るにも意なしこの人向よ坡公法帖の
字を展て稍大字よ作り友人よ示ハ友人哉よ多づ
隻鈎一都下の文人及び能書家よ題辭を乞ふ諸名
士これを見て云東坡法帖ハ未曾見の奇蹟なり

とて文人も奇文をて駭雉をうけ又書今世名雷鳴の轟かめき書家先生楷書紙をて鑒定の季月紙うめくし
く記しあけりかの友人これを見て臨書に并て刻に
つれ他日文壇の佳話に供ふと聞へうるるに生刻
既に成り余その墨本を見るに字の径り三寸ばかり
にして坡公次韻伯固遊蜀岡送叔師奉使嶺表の
作なりかれば余亦まもなく賞鑒を雖きすに見ぬ実に
山人のいふる書画の似るは唐人を上手なりといふて
唐人のまたび今を和人も上手と思ふるされども東
坡の書は此孫今人の贋作せしを真跡なりと思ふハ

前にいふる唐人の晋人の書を贋作せしは天壌の間なる
べし因に云好事家と賞鑒家とは自ら両等なり
世ハけハ家に資力多く書画に遇へば牧め置くこれを
聲を聽に過ぎこれを好事家と云賞鑒家ハこれに
異なり天資高明して多く傳録をも閲し或ハ自
ら画を能し或ハ画意に深く一園戎滑るどに
絶に賞玩して古人に対するがめしに聲色の奉
といへども奪ふとあるべしとなん是ハ宋元章
の説なり

展觀會の事

於菟按ゑ文衡山常ゑ書画を品評すること殊好む友人李日華衡山へとゆらふごふ其藏めある書画を携示しけれバ大ゑ悅びて やゞて我蓄ある所を見せんとて自ら書房ゑ入て四巻を出し日華ゑ示し終れば又四巻を入て出し〳〵すること幾遍し倦むことなくのゝしび見きて樂〳〵けるとゝ此際すでゝ近世都下の文人詞客書画家者流各古書画を携へ或ハ禪院或ハ閑なる別業ゑ集り其幅を壁上ゑ掛並て終日賞玩し甲乙伐品評して勢を爭ふこと ひつ是を展觀會といふ実ゑ風流韻事といふべし〳〵余こゝろ

一先生ゑ向ふかゝる韻〳〵の唐山ゑもあるも先生答て云往〳〵諸紀載或ハ法帖の未ゑも見ず〳〵前賢の書畫伐後の名士因觀〳〵て帖末巻尾等ゑ姓名伐記し或ハ題跋を系るもあり これゑよりて益後世の價も重らん明張爰平曰夫賞鑒家得一古繪必与諸名手遍相傳閲互出品題當時皆得指名而物色之云云唐山名士の鑒定ゑ於かゝのごとくなるゝ形ゑ事と見へゝもう又これゑ反せるゝ隨園詩話云有人画七八瞽者各執圭璧銅磁書畫等物作張口爭論狀號群盲評古圖其誚世也深矣。これハ書画古玩のゑもてうみ

祥盲
評古
圖

無法畫史化之

ある時ゝされど唐山とても自らも鑒定ふ仕なるかる人もあるべしとなを又此陸ゝも此圖とよく符合せる画あり久隅守景の繪まて群肯遊戯の类物姫路侯の御苑ゝありと余も邸中の人ゝこれをきく凡巻中聲者遊戯の態あゝざる不なき内ゝ一聲者ハ櫻樹をいゞき衣を呼び一聲者ハ手ゝ垂枝を撓めて花を摘索し一聲者ハ樹下ゝ仰卧し頭をあげ花香をきゝの表態ゝ肯人の情態を考へ[illegible]り諸ゝ名工の手法ハ和漢同構といふ

書画會の事

近世盛ゝ行はる書画會の式ハ於菟按ゝ寛政の比鎌倉の曇徳といふる僧より始まれりと聞傳へ[illegible]この僧向ゝ長崎ゝ遊び清商程赤城ゝ書を学びすゝて江戸ゝ来り自筆の扁聯を製作し又単帖ゝ何月何日某の酒楼ゝあゝて書画の筵を開き諸君子の賁臨を待と記しこれを預じめ四方ゝ贈りさて當日諸客を酒楼ゝ迎へ書を作り画を作り杯を傾け高談互ゝ起り會主ハ是日多少の潤筆を云こゝの産出牛山もこれゝ倣へりこれよりこの擧まゝく盛ゝ行はれ今ハ

書画家者流この雅會を設るのみならずやこれを儒流詞客此定式に倣ひて高會を催し詩賦書画の興たけなはに及つてこれつぐる緑竹管絃をりくこれを助く実に昇平の樂事にして山陰蘭亭の會に落と一籌と云べしこれバめ此雅集後世唐山にもあらんやと一先生に向ふ先生いふかゝる會毫まゞ書籍にも見あめら稱ども僅に板橋詞鈔に見及しハ乾隆廿一年二月三日。予作一桌會。八人同席。各携百錢以為永日歡。座中三老人。五少年。白門程綿莊。七閩黄瘿瓢與癡。板橋鄭氏名燮為三十老人。丹徒李御蘿邨。王文治夢樓。燕京于文濬石卿。全樹金兆燕棕亭。杭州張賓客仲謀。為五少年。午後濟南朱文震青靄。又至遂為九人會。因画九畹蘭花。以紀其盛云云。これら此方にて至極寒酸なるとゝ思ふ

書画帖の事

書画帖ハ唐山にてハ早くあるとゝ此陰にてもこれを古くもゝ鑑と稱し古人の遺墨を集め孫敬そう近時も此事都鄙に行れ書画帖と呼び都鄙とゝ頒め帖子或

製しこれを携へて四方に奔走して知る〻ざる〻書画人の揮毫を乞ひ工拙を忘れまゝに只多く貪り得るを旨として上計とし今の書画人を勞なたびとなす〻向に京師の人端隆字は文仲と云又春莊と号し書を鬻ぎを旨として業とし詩を能し隱操ある人なりと云天明年中京師の大火にあひて大に蔵拓せりされども春莊帖と名付る書画帖を懐ふして知己の法名家に乞ひて寄せ求め此帖を〻おのゝ別莊なりとてたのゝめると云事畸人傳に見へたり〻ら〻真に好事なることゝて又生涯流をも掬べし

書画に業辱のある事

或人云それ榮辱は人にあるのみあらず書画もまたあり姑くこれをいはゞ書画の業といふは書なれを具眼の人の手にのり生字體一点一畫に行墨の間倩に愛玩せるをこそ生書の榮といふ〻画の榮といふもこれにひとし〻九山水人物花卉禽鳥に至るまで名画は造化を奪ふの手腕ある筑具眼の人を生物霊に心奪ひ魂合して收藏せるをもて生画の榮とは云へ又辱といふも所云は父書画を好て集めしも生子不肖にして これを見ること芻狗のめく果は後ひ散じ〻り生遺物遂に失せるなど或は貴戚權豪の家に集りて誰賞玩せるものもなく深く藏し歳月を

経て他人好りの目ふるへとともなく浪こゝハ黴爛蠹蝕して自然と敗腐し失ふもの多くこれひとへに書画の不幸なるべし亦肖子の手に渡りし失ひしハ再び好むもの目なへ蔵き時もあるんかの貴戚権豪の家に蔵せしハ尤も画の尊を知ると甚しきやいなん又一種同じく書画を知ればこれ聲を聞き稍資力あるに任せ賞鑒を人に乞ひハ必ずめて素堵にこれを求め深くひめ置てたゞ収蔵の名を なるこゝの家に尤これを好ぶるふひとりとやいなん

墨帖の事

我邦墨本正面板ハ廣澤先生より以前此製作を知る

人なし　柳原篁洲先生ハ廣澤先生の友人なり此両先生唐刻の墨本をもて水に洗ひ色に工夫して漸く成就せしなり当時先生の家蔵の朱文公大字真蹟あり雙鉤して正面墨本を作りこれを此際正面摺の始とを雙鉤して正面墨本を作りこれを此際正面摺の始とは今正面墨本を製するもの廣澤先生を始と云ふ説なれ共さて先生製作する墨帖標題を近衛太政大臣家憲公沙染筆にて源始墨本晦菴真蹟と八分をもてなるこれなり当時徂徠先生家刻なりとて玄宗御書八分石臺孝経の墨本あり生涯安永の比伊勢の大年韓翁をとゝふ古法帖を好み殊帖を得れハをつゝ雙鉤

此書刻成の後廣澤先生手刻朱文公大字墨帖崇山先生手澤の本紙文峰先生出示ス摹勒尤精妙之廣澤先生自跋略云此方有反字印板而無正面打碑法慎少壯好事与紀藩儒臣篁洲玄輔探法諸書粗得要領嗣後数易年所多費楮墨幾得与漢國号為神品者髣髴似焉今用其法打成数帖云〻実不此跋なうせは賞鑒家も必華刻古

摺と元誤べし
敬服のあまり
此ふ附し粉下
文の徴とす

刻工を召しみ刻せるりの嶧山碑をさしぬ晉唐法書の諸刻数種ありて世に伝れり模勒の精良これを先ずは見る所なし嘗て聞く翁得意の碑帖を以れい是を臨書せること数十通ありてそれより日の力を極めて傚翁の刻手の良工を托して費紙いとゝ多かふ一版も数十日すでに成るを告るありと云又翁唐の史維則隷書大智禪師碑本世に有と紙きて多方これを求ること久し一日書賈この碑の傚鈎を齎し来りて價五両なりと云翁欣然としてこれを求め人を告げて云く我この碑を望ること久し今この傚鈎を以せあたは数十年の渇望紙一旦慰めありとて喜びしとなんこの一事それも翁古帖を好むこの厚き紙をもてこれを栗山先生の話なり

とて或人かたられし又或人云此原本八度浮先生に有しを翁のこれを求ること一大憾なりと云べし りこれを知る人翁必先生の家に就てこれを問へし今先生の没も絶ざること幾のめく福岡侯に有ときく遺愛碑帖も浮人今に守るや否知るべからざるなり

於菟云近年舶来の碑本漢魏六朝唐宋元明の物を夥しき毛擧きべらべ我玉巌堂儲る所の碑本も又きくなりべ因て憶大年翁のこれを好むべきを今人を見べ翁既に道山に帰る惜哉翁の今日にあら

ざること嗚呼遇と不遇と時なるかな

落款の事

芥子園畫學淺說云元以前多不用款或隱之石隙恐書不精有傷画局耳至倪雲林字法猷逸或詩尾用跋或跋後系詩文衡山行款清整沈石田筆法灑落徐文長詩歌奇横陳白沙題詞精卓每侵画位翻多寄趣近日俚鄙匠習宜學沒字碑為是これらの見れる古人画を作り又自己の名をりく猥ふ局中を汙さざるを貴ぶことなり雲林の諸老ハ書画の善美を尽きば自ら所に隨意に款せ〻とこれを併て浮世誰か至寶と

ぜざらんや此際すんしも大雅堂三熊海棠を落款特ふ見るべ
かり

造筆の事

近世江戸にて筆匠往〻華式を傲ひ筆を製せること始り
元来駒込追分の静好堂高麗慶といふるものより起れり
是頃の高麗慶ハ良工にて能き毛を選み水筆紙造の
手外各色の筆紙も造れり是筆簽筆套まで華式にて
撰〻是小文を手淳兎道先生のまふ出せりと云へり按
莞按るみこれを是さ記既ふ慶淳先生此際の製筆用
にあらざるを嘆きまひ筆紙解き仔細ふ点見〻

製作の法をはそれを筆此際筆毛の用ふあるべき筆撰
く自ら筆紙製〜試みて遂ふ管城二譜と云書を著し
凡巨細の筆製作の法漢文りてこれを記〜これを附〜
て各図式あり〜これを対照し〜是れ製作の法まるく
詳なり此際造筆の事紙記せ〜ハこれを始とも〜原本
廣海先生自筆りて寫〜る紙今永根文峯先生
能弃せり余これを乞ひはて我玉巌堂おのて近刻の
擧あり実ふ藝苑の称書なり思ふる甚文雋永りて
小品なれ〜り海を航〜彼の邦よ至らば張山来氏
めきもうるべ昭代檀几等の選を收むべく思る去

らば是書の不朽をはり〜も盛事とやいへん

印章の事

廣海先生弱冠の比とうも唐山より秋間戲鏞と云印譜を
渡〜り熊本の士長崎より菓子を製する商人伐抱
られり篆刻も来り〜人有秋間戲鏞の摹印を命ぜら
る此比より篆刻の事盛なり居〜上手も出来り嗟嗟
黄檗の蘭谷と云僧篆刻を能せり廣海先生の字曰公
謹と云陽文の印蘭谷の作なり先頃より我邦にて篆刻
も蠅石ふ出るりのと云と初て知りる有極上の密蠅石
一貫目にて銀拾五匁ぐらひにて有〜と先生の話ありと云

印譜も秋間戟鋏のごとくして各篆刻を成すの皆生風なり
先生唐侯の図るとも千呆高泉も別懇にて印乃事も向
れ〳〵と云先生八秋間戟鋏の風を不用專ら古人の法を
用ひ明唐伯虎何雪渙の法を乳る男九泉の印も明人王
一元の篆刻も心游青山流水と云印あり又享保年間
唐山の篆刻家龍湖連珠集と云印譜を熊本侯に贈り
〳〵と有此印譜の中にて好あらば誂へ〳〵とて印譜
の図六七顆も唐山へ誂へ〳〵のものとなり先生も寫して花せ
り生譜に十二方法の彫法あり又雪渙篆刻十五六顆
土浦侯にありて先年関思恭出干の節君公に中て

先生に見せしに何雪渙印譜八冊廣尾廣林寺什物なり
人見ん〳〵と欲乞へ八紛失のよしにて他見を許さず印章
も数多あり不案内の人〳〵寶〳〵の惜事なり山上雪山
廣厚二先生略傳と云書に見へたり暗生要紙摘てこそ
識し或人云明の印章名手は文三橋何雪渙徐髯仙
浮高陽周公瑕李長蘅歸文休蘇啸民趙凡夫の事なり
梁千秋も何雪渙の門人にて上手なり唐伯虎の鉄筆八
未これを不聞恐八誤なるべし〳〵となん於菟掬に向ふ長
崎の伯民も好手なんども古意索然にして生體千篇
一律なり甲斐の人高芙蓉に至りて古印復古の志し

専ら宣和印譜等を祖とし海内これらをめづ一時目録改むこれ書家の古法帖を唱ふる所以曾之唯橋藏六の輩出て古法を倣ひ行る二世藏六名参明の蘇嘯民刀法を奉じ大印を合作多し生家を嗣ぎ刀法籍

能く義父の風紙守里頗る能をなりこれを三世の元藏六と云益田勤齋八良工の名遠く人の知る所なり平生利名を求めず貪書生雲遊僧の輩を求めて閑

く生人品推し知るべし篆刻専門あらざれども好事稱する八向る平安の葛子琴是なりこの人明の文壽承の鋏筆名あるにひとし忙八生刻世に傳るもの甚少なり

又大雅堂自刻の山莊大夫と云一顆を見ることあり刀法渾然として古意靄然たり全く書画の餘興に出るものといへども名家の伎倆あざる所なしと云余按ずるに舶来の印譜数舉をべからず今こゝに生崖略を附存す宣和印譜ハいはゆる淳化星鳳の諸帖贋本なれ共見るべきものなく佳本を見ず来好學倣宣和印譜をもて佳本とすべし世に少なり生他八秦漢印統宣和印史顧氏集古印譜甘氏集古印譜趙凡夫印譜學山堂印譜蘇氏印略皆鋏筆の法則なりと聞く清ふる谷園印譜超然樓印譜澄懐堂印譜飛鴻堂印譜等あり尤篆刻家の儲べき八清の

汪秀峰選して漢銅印叢あり これハ漢印ぞろい集め～
譜なり又回選して印存あり これハ薄葉の諸名流の
名字或ハ遊印ホ真印紙集め～譜して印譜の大觀なり
或人云この譜これを譬るに儒書でいはゞ上六経より下る
諸子百家の書この一部に收るゞめ～とさるなるべ～

懸物の事

唐山にて ハ掛物一幅を孤幅とも獨幅とも云 二幅對紙
對幅とも 配幅とも云 学範の説に古人の画多ハ對幅な
しと云 尊生八牋に古人名画ハ對幅ゆ～と云へり志るる
寶繪錄には俗に古画を對幅を作らゞと云と上古ゆ

就ての論なり 浮世画院大内に進むる華往～對幅を作
れり 且趙千里趙松雪黄子久高房山の輩四幅對をも
作れり 故に古画を對幅を作らゞといふる八一律の
論なりといへり 世隆にても姫路侯の御所画に明の劉俊
八仙人四幅對ありと伝へ承る

表具の事

大整幅は上引首三寸にて下引首二寸あり 小全幅上引
首二寸七分にて下引首一寸九分なり 経帯八四分なり
上標ホ撮を除きて外浄一尺六寸五分 下標上軸を除
きて外浄七寸ありと云 これハ唐山表具仕方の大槩に

て圖繪寶鑑の說あり又古畫多ハ直幅長さ八尺なるものあり横披ハ米芾父子よりもすぐまると學範の說なり拾菟云凡書畫の性命ハ表具の與る所なれハ尤表具仕立ハ大切の事なるべし按ゝ照代叢書中ゝ張心齊裝潢志あり唐山その仕立方殊ゝこの書ゝつくゝゝ精此書ゝ就て生詳なるを知るべし

近世名家書畫談上卷畢

出雲蔵書

玉巖堂藏梓目録

東都兩國横山町三丁目 和泉屋金右衛門

合刻四書 孝經學記 片山兼山先生點 大學中庸 全一冊

孟子正文 片山兼山先生點 全三冊

周易正文 同上 全二冊

禮記正文 同上 全五冊

周禮正文 同上 全三冊

論語考二編 宇士新先生著 全三冊

士新先生學問ノ該博ナルハ皆人ノ知ル所ナリ此書ハ經傳子史凡ソ論語ノ意ニ涉ルモノハ旁引曲証ソノ精詳ヲ極ム學者ノ考鏡ヲ資ケテ最モ裨益アルノ珍編ナリ

大學原解 錦城太田先生著 全三冊

先生經學ニ大功アルハ天下ノ驚服スル所ナリソノ經解數十部アリテ此書ハ其一ナリ古今諸注家ノ紕繆ヲ訂シテ先聖ノ秘蘊ヲ發明ス大學注解書多シト云トモ此書ノ如キノ精確ナルハナシ學者ノ最モ貴重スヘキ書ナリ

中庸原解 同上 全六冊

三經談 晴軒太田先生著 全一冊

此書ハ論語孟子周易ノ疑義ヲ明ニ辨シテ學者講經ノ一助タラシム且錦城先生晩年ノ定說ヲモ記載シタレハ九經談ト相參考シテ最モ裨益アルノ書ナリ

論語一貫　片山兼山先生著　全五冊

先生ハ近古最一ノ考証家ニシテ清朝諸大家ノ影響アリ元禄享保ノ學ノ謬誤ヲ一洗シテ一家ノ學ヲナス儒者必讀ノ書ナリ

趙註孟子　善庵朝川先生校點　全四冊

後漢ノ趙岐臺卿ノ解スル處宋ノ程朱以前ニシテ別ニ見處アリ新注ヲ讀ム人マツコレヲ披覽セザルヘカラズ

皇清經解一斑　岡田煌亭先生校點　全六冊附總目

原本一千四百卷其要ヲ撰採シテ此編トス其精確ナル古今解經ノ翹楚ト云ヘキ書ナリ

七經劄記　岡田煌亭先生著　全三冊

周易尚書詩經左傳孝經論語孟子首卷總目附

仁說三書　錦城太田先生著　全二冊

洙泗仁說一貫明義仁說要義ノ三書ヲ合刻スルモノ也先生數十年ノ精力ヲ窮ノ發明スル處アリ此書ヲ著ス故ニ其說精詳確當ニアラ今未發ノ秘蘊ヲ啓クト云ベシ附錄論語ノ衍文誤字等ヲ考ヘ經傳同語異義等ノ數則ヲ舉示ス學者實ニ鴻寶トスベシ

疑問錄　同上　全二冊

程朱ノ學ノ大意ハ聖人ニ詭ラザレドモ、其老佛ニ混雜スルモノハ道ヲ害スルニ近キアリ先生積年其似疑ナルモノヲ甄別シテ駁正セリ學者ニ大功アル書ニテ讀書家ニ必貯スベキ編ナリ

梧坡教諭　錦城先生附言　全二冊

堯民先生著

世教畫戒ノ意ヲ主トシテ旁ラ故事古書ヲ引テ詳明シタレバ梧窓漫筆ニ類シテ又別ニ捷徑ヲ開キタル珍書ナリ

緇林年芳　迦則　全三冊

此書ハ世尊降誕涅槃ヲ初トシテ和漢佛寺始佛像ノ傳來或ハ經卷ノ翻譯佛法ノ奇異或ハ石勒ノ佛圖澄ノ言ジ達摩梁武帝ニ見ヘ或ハ白濟ノ曇慧我朝ニ來リ空海ノ唐ニ入ル玄奘西域ニ至リ日蓮ノ宗ヲ弘ル等事實白般後漢ノ明帝ニ起リ我天保年間マデ干支ヲ符シ紀元ヲ掲ゲ和漢ノ書數一部ヲ以テ其下ニ抄錄シ悉ク小傳ヲ記載シタレバ和漢印度高僧ノ年數ヲ按リ履歷顛末ヲ索ルニ甚便利ノ書トリ

西銘　附東銘　全一冊

朱子年譜略　全一紙

朱子訓子收　全一冊

梧窓漫筆　錦城太田先生著　全二冊

先生平日隨筆劄記ノ書也古今治亂ノ本原ヲ撮シ風俗汚隆ノ係ル所ヲ論ジ博ク經傳子史ヲ引テ証シ又學術ノ雅正ヲ辨ジ天人ノ秘蘊ヲ滿ク實ニ大ト有用ノ珍編ナリ

同後編　同上　全二冊

前編ニ漏シタル妙論ヲ載セ又經學詩文ノ流派ヲ辨別シテ其精確ヲ極ム前編ト同ク双璧ノ書ナリ

同三編　同上　全二冊

向者刊行スル前後編四冊盛ニ世ニ行ハレ刷反裝本日ニ絶暇無ニ至ル今此三編ハ前後編ニ漏タル奇事瑰說ヲ綜合シ仍其外ニ舊聞ヲ溫尋シ古人未發ノ新得ヲ提示シ家庭ノ訓誡ハ多論旁ラ博聞ノ資ケ詩文學習ノ秘訣ヲ掲ゲ都合十冊ヲ以テ全部ノ鴻寶トス

近代著述目録 横本 全五冊

同 近刻 全五冊

同後編

此書ハ儒家詩人國學和歌有職故實兵家法律醫家易学陰陽五行神道釋氏諸書四茶道生花聞香狂歌俳諧話本維技衆藝ヲ慶長年間ヨリ天保ノ今ニ至ルマデ其道ニ名アル人ノ著述ヲ收載シ通編イロハ四十七音ヘ其姓氏ヲ排列セリ巻末ノ部ハ伊藤仁齋伊勢貞丈ト表シ其ハ下ニ書目ヲ擧タリ近世目録ノ書頗ル多シトイヘモ皆板行セル者ノミヲ載テ諸家ノ深秘緘柜ヲ以テ世ニ孤行セル者ヲ記スルコトナシ此書ハ珍巻奇冊人ノ聞見ニ及バザル者ヲモ探索シテ遺スナシ只書目ヲ知ノミナラズ諸家ノ姓名字號俗稱郷貫等ヲモ詳ニ附シタレバ其小傳ノ用ニ充ツ足レリ雲顧ノ君子 本ヲ架上ニ置テ一過讀シ玉ハバ更ニ博識助トナルベシ

唐土歷代著述目録 横本 近刻 全廿冊

此書ハ初メニ天子御製ノ書目ヲ擧ゲ次ニ歷代名家ノ著述聖賢ノ經傳ヨリ諸子百家ノ書演義小説ノ類ニ至ルマデ悉ク收録シイロハ四十七音ヘ其姓氏ヲ配入シ前後新舊ノ次序ヲ分チ其下ニ書目ヲ擧ゲ索捜ニ便ナラシム讀書家一本ヲ貯ヘ披閲シ玉ハバ多々ノ利益ヲ得ベシ

朱子家訓經典餘飾 齊田先生述 全一冊

此書ハ南宋ノ名儒朱子先生平生子弟ヲ導キ教ヘシ家訓ヲ人倫ノ道ヲ明ニシ五常ノ理ヲ述ベ以テ身ヲ脩家ヲ齊ル最ノ書ナリ今國字ニ以テ審ニ和解シタレバ士農工商共ニ解シ易ク是ニ讀ミソノ道理ヲ會得シテ家ニ導タマヒナバ子孫長久繁茂スベキ基ナリ

甌北詩選 清趙翼先生著 大窪詩佛 岡部菊厓両先生閲 全三冊

詩學韵海 大典禪師著 全二冊

世ニ初學作詩ノ為ニ設ル書多シトイヘモ韵字ノ用ヒル例ヲ悉ク論ジタルモノナシ此書ハ韵字ノ下ニ鮮ヲナシ又唐ノ元稹白居易等ノ大家ノ集ヨリ長韵ノ詩ヲ格出シ古人ノ隻句ヲモ載セタレバ是ニ據テ其用例ヲ捜索セバ益アルー鮮ナカラズ

藝林摘葉 井良紀子綱著 全一冊

音義ノ訛舛ヲ訂正シテ初學讀書ノ資トス簡便有用ノ書ナリ

鳳鳴集 太田錦城先生著 全三冊

先生ノ詩集若干巻アリ此書ハ其ヒ絶中殊ニ佳境ト称スル者ヲ集ム先生卓越ノオヲステ旁ラカヲ詩學ニ用ヒ唐宋諸家ニ於テ窺ハザル処ナシ故ニ其比興深興ニノ世ノ詩家ノ作トハ大ニ其趣ヲ異ニス學者玩味シテソノ作意ノ妙ヲ知ルベキナリ

甌北詩話 同上 天民它山両先生校 全四冊

趙翼先生學問淹博近清諸家ノ巨擘ナリ此書唐宋元明清朝マデノ諸名家ノ詩ヲ評論シ及ビ其履歷顛末ヲ考究シテ精詳該博トス從前ノ詩話ト同日ニ論スベカラザルナリ

晚唐十家絶句 全二冊

杜牧 許渾 趙嘏 李群玉 温庭筠 薛能 皮日休 陸龜蒙 吳融 韋莊

右十家ノ七言絶句ヲ集ム

談鋒資鋭 棄民先生著 全二冊

此書ハ平日錦城先生ニ聞ク処及ビ後世隨筆中論ズル処ヲ劄記シテ學者博識ノ資トス又小説ノ奇事奇談等載タルハ大ニ看ル人ノ悦バシム

客杭日記 元郭畀著 全一冊

龍背發秘

太田錦城先生著　荒井堯民先生校　全二冊

此書ハ家相ノ緼奥ヲ著ハシテ衆人ノ為ニ福利ヲ導ク妙訣ナリ古ヨリ此類ノ書數種アリテ生尅旺衰ノ事ヲ載ルト雖モ元此事ハ易理ニ出テ聖人ノ人ニ教テ害ヲ避ケ利ニ就キ凶ヲ違テ吉ニ趣クノ一端ナルヿヲ言ハズ今此編ハ專ラ漢土ニ云家相ノ周易ニ原ヅキ黄帝ノ宅經梁ノ簡文ノ竈經トドノ秘ヲ探リタレバ古ヨリ傳ル家相ノ諸書ト互ニ發明スル処アリテ家相ノ理ヲ窮ムル必讀ノ書ナリ

頭書遊仙屈抄

唐張文成作　學士伊時點　全五冊

本邦ニテ中華ノ小説ヲ譯解スル八此書ヲ以テ始祖トス嵯峨天皇ノ時學士伊時ナルヒノ神仙ノ訣ヲ得テコレヲ解ストイヘリ小説家必讀ノ書ナリ

幼々集成

青陳復正著　全十二冊

龍背師傳圖説

太田錦城先生直傳　堯民先生著　全三冊

此書ハ家造ノ形相地面ノ張欠等ヲ画圖ニ顯シ圖毎ニ口傳ヲ述テ任人ノ盛衰ハ元ヨリ妻子眷屬ノ幸不幸親子ノ間ニ故障アルヿ片輪ナル子孫出生スルヿ下人等ニ不忠ナル者是アルヿ家ニ祟ル刀劍ヲ所持ナスヿ又ハ人難水難病難色難盗難等ニ至マデ眼前ニ知得ノ妙訣ナリ人覧シテ其虚ナラザルヲ知ルベシ

痘疹不求方論

全一冊

歴代名醫一覽

雑門先生著　全一折

丸散兼用方機

小本　全一冊

此書ハ東洞先生ノ作ニテ金匱傷寒ノ方ニ機變妙用アルヿヲ記セリ是先生常用ノ方劑ニシテ臨病機變活用ノ書ニツキタリ且丸散兼用ノ法ヲモ載セタレバ大ニ幼學治療ノ益トナルベシ

先哲叢談

念齋原先生著　全八冊

此書ハ文禄慶長ノ際ヨリ享保元文頃ニ至ルマデ名聲籍甚ノ碩儒聞人ヲ傳シテ其姓名字號俗稱生誕沒故ノ年月日廷曳ヲシルシ稗史野記及ビ口碑ニ存スル言ノ奇談ヲ悉ク採摭シテ古人ニ面接シテ往事ヲ見ルガ如クナラシム其言行篤實博覽アリ抗辭アリ矯後アリ執拗アリ介僻アリ可貴可感可喜可驚可哀可笑ノ佳話甚多シ故ニ着官大ニトル時ハ條身齊家ノ模範トナスベク小クトル時ハ温故知新ノ談柄トナシテ囲炉寡聞ノ謗ヲ免ルノ此書ニヨラズシテ又何カアラム研尋ノ君子一度巻ヲ開カバ終日手ヲ離ツ事ヲ得ザルホドノオモシロキ書ナリ

舊蹟紀聞

立綱法師著　全二冊

皇朝ノ事蹟ヲ考ヘ古語古書ヲ引証シテ國學ノ一助トス

近世名家書画談

雲烟子編次　全二冊

此書ハ古今書画鑒定の為に撰ぶ所なり又出画と学ぶ人とも元巻ある出と元巻編画論ハ古人の所説ばかりそれぞれ此書の如くこれ乃ち人妻さ梨と成るべし　又流行の書画會展覧會ばかりの文房小係りしまハ落款印章要帳造書掛地表具ばかりの事ハ我世人ハ是を上用とする故に拉麿の中ハ昔時大雅美谷大華の諸老ハ無ばかりの道ハ日記ばかりの内ハ大雅の家ばかりの中ハ若不ばかりのまゝ家あるこれ乃ち書ばかりの外と世名家諸老生涯の書画ばかりあるべしと雖人情ばかりの面白ハ珍説軼事を数種ばかりの巻尾ハ諸老家ハ源落款と換写し是と合すべし　冊

と云ハ誠ハ俳諧雅ハ俳諧風流の出ばかり書画ハ好む法者ハ意右清玩等の寄出ばかりハ一本と絶ハ裏日の秘伝ばかりふなしのみ実ハ忘れるハ

譯解笑林廣記

遊戯主人纂輯　一噱道人譯解　全二冊

コレハ漢土ノオトシバナシニシテ面白キコトカギリナキ書トイヘドモ俗語バカリニテ讀ガタキ一ツ和解註釋ヲカヘ誰ニテモヨメ安クトセリ且俗語小説ヲヨミ習ハントスルニ漢土ノ人情ヲ知ラザレバ解スルヿ能ハズ此書ニハイカナルヿモ悉ク漏サズアル故ニヨク人情俗態ニ達スルニ妙ナリ故ニ俗語ヲヨム人ノ捷徑ニシテ關ベカラザル書ナリ

開卷百笑

談洲樓焉馬大人評　全一冊

此書ハ焉馬大人ノ纂ル処奇ク妙ク面白ク今昔ノおとしばなしヲ集メテ老若男女共ニ目ヲ開キ口ヲ開キ腹ヲ抱ヘテ笑ヒ倒レ居ルヿ必ナリ

笑戲自知録

伴田陳人著　全二冊

此書ハ仏学ヲ主トシテ儒ノ教ヲ兼ネ神ノ教ヲ合シ其ノ秘訣ヲ説キ其ノ奥義ヲ発シ其ノ作文ハ一文ヲ以テ天下一ノ宝ヲ得タルガ如クニ時ノ解頤ニ資スルノ珍編ナリ

烹雜之記

曲亭主人著　全二冊

和漢ノ市井ノ俗ノ中ニ行ハレ考ヘ又ハ著ハシ難キ志ノ足ラザルヿヲ補ヒ編ミタリ

棟梁集

松屋主人著　全一冊

此書ハ家屋ノ造作ノ法ヲ説キ其ノ材木ノ産地及ビ南田川ノ板木ノ外種々ノ板木ノ体編ヲ精確ニ究ム

徵瘍新書

鶴陵庵倉元周先生著　全二冊

此書ハ古ヨリ難治ノ癩病ヲ先生燒針ヲ刺シ斑猫ヲ以テ毒ヲ去ル事ヲ發明シ千古以来コレ無キ治術ヲ萬世ニ傳ルナリ又梅瘡ノ治法此書ヲ能反覆シテ讀ーキハ如何ナル難症ニテモ治セザルハナシ實ニ天下第一ノ奇書ナリ

傷寒啓微

同上　全三冊

此書ハ傷寒論ノ諸註家未ダ言ハザル所ノ奥義ヲ發キ瘟疫ト傷寒ト同病タルヲ辨明シ且傷寒金匱ニ書ノ方ニテ症ニ臨テ足ラザル所ノ治方ヲ唐宋以来ノ醫書ニ撰ビ又経驗スルトコロノ新定十七方並ニ陣丸ノ方ヲアゲテ治療ノ助トス今治療スルニ其益甚多クシテ人ヲ濟フニ深カナル書ナリソノ新定スル所ノ諸方又疫症ヲ發明スル抔ノ妙處ニイタリテハ實ニ仲景ノ羽翼ト謂ベシ

産科發蒙

鶴陵庵倉元周先生著　全六冊

此書ハ妊娠中ノ諸症臨産ノ経驗治方ヲ悉ク舉ゲ且産論翼ノ備ハラザルヲ補ヒ萬古ノ来醫書ニコレナキ所ヲ發明シ又阿蘭陀難産ノ圖二十七ヲ翻譯シテ審ニ示シ且家秘ノ妙方ヲアラハシタレバ其治療ニ益アルヿ舉テ數フベカラズ醫ヲ業トスルモノ一日モ此書ナクンバアルベカラズ

靜儉堂治驗

同上　全五冊

此書ハ先生數十年来ノ治驗百中ノ九シルシ置シタルヲ集メラレタルナリ病者ノ姓名住所前醫ノ治方又ハ自己ノ與ヘタル劑ノ効ナルヿ効ナキヿ包ムヿナクカヽレ又麻疹ノ經驗方肝症ノ治方並ニ弟子大森氏ノ治効十餘條ヲ記シ又衆醫ノ治スルヿ能ハザル奇疾ヲ治シタル等國字ヲ以テ書シタレバ實ニ後進有益ノ書ナリ

青囊瑣探　鶴陵片倉元周先生著　全二冊

此書ハ先生ノ漫筆ニシテ人ノ戒トナリ又初堂ニ學業ヲ勸メ人情ノ免レザル所ヲ記シ且奇効アル秘方並ニ甲斐ノ德本ノ經驗十九方ノ主治藥方ヲ舉グ醫家ノ重寶ナル書ニシテ又俗家ニテモ是ヲ讀トキハ發憤シテ壯年ノ益トナル事多シ

三餘叢談　柳屋主人著　全一冊

皇朝の國史或ハ古記物語又諸ふみ出らる解しがたきものどもを詳ふ考究しなる奇冊なり

東江先生書話　全三冊

我邦晉唐法書ニ根據シテ書學一變セルモノハ先生ヲ以テ祖師トナス此書ハ諸家隨筆中ヨリ古名人ノ墨蹟ニ關ルヲ考索シテ學書ノ人ノ博識ノ資ク實有用ノ珍編ナリ

瘍科秘録　棗軒本間先生著　全七冊

華陀翁ノ遺教ヲ述又先生ノ自發明スル所ノ術ヲ加ヘ瘍科ノ治法ヲ論スル書ナリ初ニ病名ヲ正シ病因ヲ論ズ次ニ脈證ヲ說キ瘡瘍變正輕重死生等ヲ詳ニス終ニ禁方秘術ヲ載セ實ニ瘍科ノ全書ナリ此書ヲ熟讀シテ治療ヲ施スハ起死回生ノ功ヲ立所ニ成ベシ

思貽堂管城二譜　廣澤先生著　文峯先生校　全一冊

此書ハ廣澤先生嘗テ和筆ノ製用ニ當ラズ唐筆ノ善ニ及ハザルヲ憾ミ專ラ唐式據リテ手ヅカラ細筆巨筆ヲ製造シ自ラ試ルヿ久クシテ其說ヲ委ク録シ又各圖式ヲ作リテ遂ニ此一書ヲ著セリ洵ニ藝林ノ闕典ヲ補フ書ト云ベシ

道彦自書畫三十六詞仙　全一冊

翁野さし記行　成美大人抄　全一冊

翁ロ十一集のうち甲子の紀行なり紀集ハ載せらる墨園子古人の評論なり又始の古歌等と雜引して此あるを好む人の樣樣なり

歸正漫録　安井真祐先生著　全一冊

宋明名儒數輩ノ佛老ノ害ヲ論ゼシヲ諸書ヨリ採獵シテ記出ス異端ノ邪路ニ迷ノ者ヲ正シキ儒道ニ歸リ入ラシム

書學大概　神道北海先生述　全一冊

此書ハ軌筆ノ法ヲ正シ古人ノ論說ヲ餘サズ擧テ研究シ明ニ解シタレハ和漢古今書法ノ必用ナリ

五體雲淡帖　星池先生書　附釋文　全一帖

扇面清風帖　清人集書　星池先生校　全一帖

神道玉鉾の道草　跡部光海著　全一冊

官刻千祿字書　顏真卿書　全一冊

東坡大江東帖　草書　全一帖

米元章主家帖　行書　全一帖

趙子昂大湖帖　行書　全一帖

董其昌衆鳥帖　行書　全一帖

董其昌登龍帖　草書　全一帖

古今名蹟墨寶帖　正面　全一帖

上古ニ蹟ヨリ或ハ源平諸將以來武家或ハ逸人名臣僧家ニ名アル人ノ真蹟ヲ刻シタレハ上古ヲシタフ君子ノ机上ニ必アルベキ書ナリ

玉屑帖　星池先生書　全一帖

和漢對照書札　初編　二編　全二冊

清朝ノ當時應用ノ書牘ヲ和文ノ書簡ニ翻譯シタレバ學問ノ益ニシテ且ツ星池氏ノ書ノ遒美ナルヲ冀賞スベシ

胸中山　全一冊

龜田鵬齋先生ノ画譜ナリ大儒ノ戲墨實ニ神出鬼沒變幻ノ奇ヲキハム

農家調寶記續錄　高井蘭山先生著　全二冊

此書ハ天地開闢し耕作せる由來よりして百姓家おのおの日用の勤方作物の植方檢地の年貢收納等用ゐる器具の形狀種法種子の德用男女婚礼の式ホの類いくるまで漏さず記せり農家の方とは

農家調寶記續錄　大藏永常著　全一冊

一名豐稼錄

此書ハ稻と刈て掛干ゆる仕方を記したるものにして利益甚多き一先著一よりかしの麻天ゆても稻をかりて稻ゆゑ掛て干とる業の精氣ようつりて實入よく毛麻ゆ米八九分ハ收納多く俵米ゆ出つゆゑ端て白米とゆゑ減少く脫ゆたくふ殘て艶あり酒米ゆしてつゆれよりく賣るゆゑ百姓ハ年貢ゆ米ゆ多く得るゆゑうまきゆ數年ためして記したるゆゑ書ゆれバしるゆ知らざるゆハ必ずぜんばるべからざる書なり

野總茗話　常盤潭北著　全五冊

此書ハ君臣父子夫婦の禮法より人の教訓を旨として隨筆記錄ゆゑ儒者ならい神儒佛の大義ゆ通ずるハ儒者の知識を廣ふして

掌中書名便覽　折本　全一冊

上ハ六經ヨリ下ハ稗史ニ至ルマデ其目ヲ掲ゲ一見シテ益アル一夥シ

大橋先生手簡　全一冊

蓮池堂任槐帖　全一冊

農家用文章大全　高井蘭山先生著　全一冊

用文章の書數多ありとゆへども云ふ記事書樣書式の文の類ゆ或ハ新やうなる文ゆ又ハ風流の雅文ゆ今ゆ五級ゆ耕作農具村役ゆ耕作の都ゆ要用の文字を悉く集ゆ定式隆ゆ古用の文云ふ法ゆ四季の用ゆ文章ゆ書ゆ

農家調寶記附錄　大藏永常著　全一冊

一名除蝗錄

此書ハ田ゆ蝗生ずるゆ油をとりて速ゆ殺るゆの仕方とゆ又ハ記し是氣候の變油の種類の種類ゆ多し著ゆ

秘傳童寶記　高西拾　折本

此書ハ痲疹毒出ずゆ外平生ゆ出べきゆ毒ゆ出ずゆ業ゆ出ずゆ又ハ衣服の出ずゆの油ゆ出ずゆ或ハ途中ゆ出ずゆ急變ゆ救ゆ

實語教童子教證註 振鷺亭先生著 全一冊

古狀揃證註 高井蘭山翁著 全一冊

御成敗式目證註 同上 全一冊

此三書ハ我国古代の遺出ありて教童村塾といへども其名を知らざる物なし然とい
へども辺鄙僻陋にして師を得て学ぶべき方を会得せざるものあるべし故に蘭山翁
先生懇切振鷺亭先生増訂を搨摭して其意味を文意試注解し一文字の正を知しめんがため
に以て此書一冊に注文ハ正字を交へて傍に俗字を附し一冊ハ児童幼女
いろは字千七者を教ハたんの師匠を始めて略然とを定試注
教ハ能の名を修るの基本なるべし

實語教童子教 頭書無點 全一冊

長雄書札文集 船田耕山書 全一冊

通俗用文章 頭書 全一冊

墨河八景帖 御家攀雲堂書 全一冊

長雄女今川 全一冊

陰陽新撰八卦鈔 全一冊

挿花圖式 全三冊

日本國郡附 両面一紙

古錢鑑價附 全一冊

泰平年代記 全一冊

古狀揃萬寶藏 頭書無點 全一冊

容膝全